

分野：日本美術史（浮世絵史）、西洋美術史、ジャポニスム研究、版画史



パリ装飾 芸術美術館 浮世絵版画展 1909-1914年 全図録集成

【復刻版】

図録6点・合本3巻
+別冊解説

Estampes japonaises,
tirées de diverses collections
et exposées au Musée des Arts
Décoratifs de Paris 1909-1914
Collection des Catalogues
dressés par M. Vignier
avec la collaboration de M. Inada

監修・解説（日本語）：南 明日香（相模女子大学教授）
シリーズ監修：馬淵明子（国立西洋美術館館長）



Edition Synapse

パリ装飾芸術美術館浮世絵版画展 1909～1914年 全図録集成

【復刻版】図録6点・合本3巻＋別冊解説

Estampes japonaises, tirées de diverses collections et exposées au
Musée des Arts Décoratifs de Paris 1909-1914

Collection des Catalogues dressés par M. Vignier avec la collaboration de M. Inada

[Western Sources of Japanese Art and Japonism / ジャポニスムの系譜 第10回配本]

【監修・解説（日本語）】南明日香（相模女子大学教授）

【シリーズ監修】馬淵明子（国立西洋美術館館長）

2018年9月刊行（限定100部）

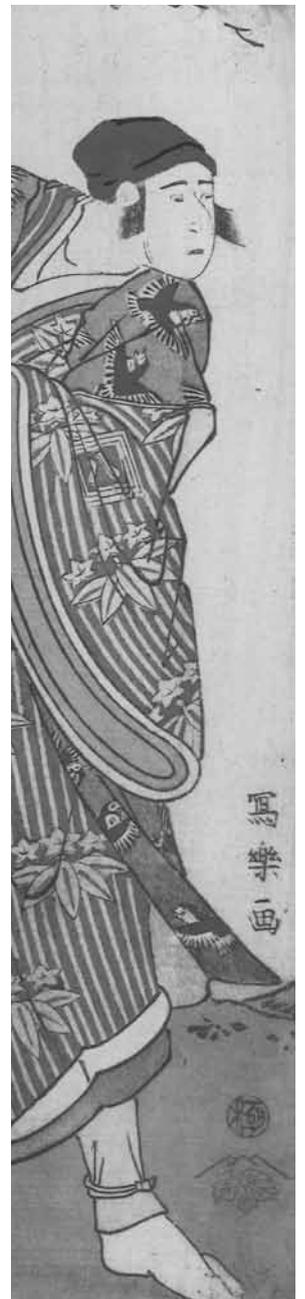
B4判 全3巻・総約950頁（図版約1056点、内カラー約68点）

本体セット価¥148,000-（+税） ISBN：978-4-86166-203-4



1909年から1914年の6年間、毎年1-2月にパリ装飾芸術美術館にて開催された、大規模な浮世絵版画展の大判図録6点の完全復刻版です。フランス19世紀末ジャポニスムブームの立役者で、後に同館の副館長となるR. ケクランの企画・監修により実現したこの展覧会では、師宣、写楽、歌麿、北斎のような人気浮世絵師から知名度の低い絵師まで約130作者の作品約2300点と関連の書籍を6回に分け展示するという類のないシリーズ展でした。ジャポニスム期を代表する美術商ビング、ラファエル・コラン、アンリ・リヴィエールといった同時代の画家、宝石商アンリ・ヴェヴェールのような美術愛好家など、多彩な日本美術コレクター66名の収集品が出品され、また日本美術の所蔵を始めていたルーヴル美術館とパリ装飾芸術美術館の所蔵品版画も一部展示されました。それまでに開催されていた個人コレクター収集品の日本美術展などとは規模、網羅性でも一線を画し、浮世絵版画史の時代区分に従い系統的に企画された初の浮世絵版画展で、ジャポニスム期の西洋での日本美術受容を明らかにするだけでなく、その後の西洋での浮世絵研究を大きく広げる画期的な展覧会となりました。しかし、6分冊で刊行された展示図録は各限定部数（100～130部）発行の豪華本であったため、図書館、研究機関での所蔵も極めて少なく、その全容を知ることが容易ではなく、本展覧会にかんする本格的な研究もまだあまり進んでいません。

今回の出版は余白を詰めますが、原寸に近い大判（B4判）で、カラー図版もすべて収録する初の完全版です。内容は、ケクランによる解説（一部共著）と展示品目録および主要作品の図版からなります。目録の編集は、詩人・文学者であると同時に美術商としてl'Hôtel Drouotでレイ・ゴンス収集品など日本美術の競売にも関わったシャルル・ヴィニエが担当し、展示作品の主題と判型、絵師名に加え、版元や彫師、所蔵者名などの情報もわかる範囲で掲載、この時代の西洋での浮世絵版画研究の水準を示しているといえます。ジャポニスム研究、国際浮世絵研究だけでなく、より広く日本美術史、東西文化接触史研究に必携の一次資料です。



●収録内容●

第1巻

Estampes japonaises primitives, exposées au Musée des arts décoratifs en Février 1909

1909年浮世版画展図録：初期浮世絵版画（仏教版画や菱川師宣、鳥居清信など24名の絵師の作品）
解説（Raymond Kœchlin）3頁 | 目録（掲載328点）23頁 | 図版（白黒170点）：64頁

Harunobu, Koriusai, Shunsho : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1910

1910年浮世版画展図録：鈴木春信、磯田湖龍齋、勝川春章を中心に約33名の絵師の作品
解説（Raymond Kœchlin）14頁 | 目録（掲載328点）46頁 | 図版（白黒点90点、カラー5点）67頁

第2巻

Kiyonaga, Buncho, Sharaku : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1911

1911年浮世版画展図録：鳥居清長、一筆齋文調、東洲齋写楽を中心に約8名の絵師の作品
解説（Raymond Kœchlin）23頁 | 目録（掲載335点）31頁 | 図版（白黒点189点、カラー20点）102頁

Utamaro : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1912

1912年浮世版画展図録：喜多川歌麿を中心に約10名の絵師の作品
解説（Raymond Kœchlin）19頁 | 目録（掲載306点）28頁 | 図版（白黒点207点、カラー15点）114頁

第3巻

Yeishi, Choki, Hokusai : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1913

1913年浮世版画展図録：鳥文齋栄之、栄松齋長喜、葛飾北斎を中心に約24名の絵師の作品
解説（Raymond Kœchlin）25頁 | 目録（掲載405点）32頁 | 図版（白黒点249点、カラー14点）143頁

Toyokuni, Hiroshige : estampes japonaises, exposées au Musée des arts décoratifs en Janvier 1914

1914年浮世版画展図録：歌川豊国、歌川広重を中心に約26名の絵師の作品
解説（Raymond Kœchlin & Charles Vignier）11頁 | 目録（掲載404点）30頁 | 図版（白黒点151点、カラー14点）100頁

●出品者一覧●

A. Rouart, B. Metman, Bing, Blondeau, Bouasse-Lebel, Bullier, Ch. Du Bos (Mme.), Ch. Salomon, Chialiva, Comte de Camondo, Comte de Sartiges, Comte de Tressan, Cosson, Curtis (M et Mme.), Deligand, Dieterlen, Du Pré de Saint-Maur, Ducoté, E. Chausson (Mme.), Fleury, Fricotelle, G. Moreau, Genet, Genova (Miss), Gillot (Mme.), Guéneau de Mussy, H. Rivière, H. Rouart, H. Vever, Hackenburger, Haviland, Horteloup, Houdard, Hubert, Isaac, J. Doucet, J. Lebel, Jacquin, Jayal, Kahn, L. Rosenberg, Langweil (Mme.), Le Véel, Léonce Rosenberg, Léry (Mme), Madvig, Manzi, Maroni, Marteau, Maruquet de Vasselot, Metman, Migeon, Musée des Arts Décoratifs, Musée du Louvre, Mutiaux, Odin, P. Girod (Mme.), Peytel, Pol Neveu, Poncetton (Dr.), Portier, R. Kœchlin, Raoul-Duval (Mme.), Raphaël Collin, Seure (Mme.), Smet, Stoclet, Tronquois, Vicomte de Sartiges, Vignier

●各回展示作品絵師名●（目録記載ローマ字表記による）

- 第1回（1909年）：Estampes boudiques, Chincho, Fusanobu, Katsunobu, Kiyohiro, Kiyomasu, Kiyominé I, Kiyomitsu, Kiyonobu I, Kiyonobu II, Kiyoshige, Kiyotada, Kiyotsuné, Kwaigetsudo, Masanobu, Morofusa, Moronobu, Morotané, Sadaharu, Sadatoshi, Shighenaga, Shighenobu, Toshinobu, Toyonobu, Yoshinobu
- 第2回（1910年）：Bunsho, Giho, Goro, Goso Koréki, Harunobu, Harushigé, Jitokuso, Kiosen, Kogan, Komatsu, Koriusai, Kosen, Kwakushi, Masunobu, Mei Kodo Sakei, Minko, Nenro, Ran U, Risen, Rokio, Shibo, Shigémasa (Kitao), Shizen, Shunjo, Shunko, Shunri, Shunsen, Shunsho, Shuntei, Shuntoku, Shunzen, Toyokuni, Yoshinobu (Komai)
- 第3回（1911年）：Ippitsusai Buncho, Katsukawa Shuncho, Kitao Keisai Masayoshi, Kitao Masanobu, Kitao Shighémasa, Torii IV Kiyonaga, Toshusai Sharaku, Utagawa Toyoharu
- 第4回（1912年）：Utamaro, Bunro, Hidémaro, Kikumaro, Minémaro, Sékiho, Shikimaro, Takémaro, Tsukimaro, Yukimaro
- 第5回（1913年）：Choki, Gangakusai, Gakutei, Hokkei, Hokuba, Hokuga, Hokuju, Hokusai, Hokutei, Keiri, Requisitei (Yeiri III), Ryusai, Shighénobu, Shinsai, Shumman, Shunzan, Taigaku, Yeicho, Yeiri I, Yeiri II, Yeishi, Yeishin, Yeisho, Yeisui
- 第6回（1914年）：Utagawa Toyokuni, Utagawa Toyohiro, Utagawa Kunimasa, Utagawa Kunisada, Utagawa Kuniyoshi, Kikugawa Yeizan, Keisai Yeisen, Kunihisa, Kuninaga, Ichiryusai Kunikazu, Kingaku, Cho-o, Hokkyo Gyokusan, Kyuzan, Fuminobu, Soshin, Fusatané, Utashigé, Rissai, Ichiyusai Hiroshigé, Hiroshigé II, Shojo Kyosai, Zeshin, Koho, Gekko, Tsukiyoka Yonejiro

推薦文

小林 忠（国際浮世絵学会会長）

従来『ヴィニエ - 稲田版画目録』の名で知られている稀覯書が復刻されるという吉報が届いた。

原書は、ジャポニスムの熱狂がまだ冷めやらない20世紀初頭、1909年から1914年にかけて、6年間6回にわたりパリの装飾芸術美術館で開催された系統的な浮世絵展の、詳細なカタログである。企画者は同館の副館長R・ケクランで、目録の編集にあたったのは、パリの美術商シャルル・ヴィニエと当時遊学中であった京都の美術商稲田賀太郎であった。

全展示作品の目録とそのうちの優品を収めた図版からなる大型図録は、当時のパリを中心とするヨーロッパの浮世絵コレクションの全貌をうかがうに足るものであった。しかしながら、刊行された6分冊は100部から130部という稀少な豪華限定本であり、日本の浮世絵やジャポニスムの研究者も容易に目にすることが叶わない、幻の画集と言って過言ではなかった。それが、ほぼ原書の味わいを損なうことなく再現されるとのことなので、復刻の意義はすこぶる大きく、有難い。

一日も早く手に取って、その床しい風味を味わいたく、全巻の刊行完結を切望している。



『ジャポニスムの系譜』シリーズ監修者より

馬淵明子（国立西洋美術館館長）

20世紀初頭のパリ装飾芸術美術館で行われた「浮世絵版画展」の6巻本の図録が、このたび復刻されることになり、まことに喜ばしい。西欧では長い間『ヴィニエ - 稲田』といえ、浮世絵の基本参考文献として珍重されてきたもので、当時のパリの著名なコレクターたちから借りて行われた展覧会の目録である。

企画者はシャルル・ヴィニエと稲田賀太郎。前者はスイス出身で、オテル・ドゥルオでの日本美術の重要な売り立ての鑑定人として活躍した。一方、稲田は長い間浮世絵商であることしか知られていなかった謎の人物であったが、本書の解説でも言及されているように、その人物像や活動がやっと少しずつわかり始めている。この奇妙な組み合わせが行った6回の浮世絵展は、浮世絵を学術的に深めるきっかけとなったと高く評価され、またジャポニスムをリードした当時のパリが、いかに充実した浮世絵を擁していたかを示している。今回の出版で、パリの浮世絵研究やジャポニスムの背景がより明らかになることを心から期待したい。



発行元：Edition Synapse

（エディション・シナプス）

〒101-0014 東京都千代田区永田町 2-17-5-201

Tel: 03-6257-1030 Fax: 03-5521-0026

http://www.aplink.co.jp/synapse

取り扱い書店：